

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290300033		
法人名	有限会社富南		
事業所名	グループホームまみや		
所在地	静岡県田方郡函南町間宮891番地の1		
自己評価作成日	令和 4 年 1 月 16	評価結果市町村受理日	令和4年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2290300033-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2290300033-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 4 年 2 月 25 日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平屋でゆとりのあるユニットが一つだけのグループホームです。共有スペースに洗面・トイレ・お風呂があります。外にはテラスがあり、そこに座りながら日光浴し、隣には公園があり、子供の遊び声が聞こえます。心とほぐれ、ゆったりとした時間が通り過ぎます。函南町間宮の近隣の人達のご支援とさまざまな声に支えられ、「その人と共にある」を常に想い、ご家族をはじめ、地域の人々と連携をとりながら職員一同、地域福祉のために努力しております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は、函南町・三島市の境に複数事業所を備え、法人全体で協力して委員会や職員研修を行い、理念に基づく地域密着型の事業所運営に努めている。自然災害BCPを作成し、法人全体で災害対策に取り組んでいる。事業所近くに法人会議室を備え、コロナ感染状況を勘案しながら運営推進会議を開催することができ、行政・地域代表・町議会議員・家族代表との意見交換を図っている。「無料介護相談室」を掲げ、地域住民との関係継続に努めている。事前連絡による家族面会や年1回の家族アンケートの実施により、家族からの意見・希望の把握に努めている。管理者は、月1回のユニット会議や年2回の個人面談により、職員からの意見の聴き取りや情報の共有に努めている。感染防止対策として、こまめな換気・清掃に努めるとともに、空気清浄機や加湿器を備え、清潔で安全な居室空間づくりを心掛けている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくりゆったりと第3の人生を共に歩む。」そんな理念に向けて、ゆっくりとした空間、ゆっくりとした時間を公平に・平等に利用者の方に提供できるように日々取り組んでいます。	事業所は、毎月1回(19時～20時)全職員参加のユニット会議を行い、事業所の理念を確認する場を設けている。利用者のモニタリングや事業所の課題について意見交換し、情報共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の組内に所属し行事などに参加しております。地域運営推進会議に町内会長、民生委員の方、に参加していただき情報の共有に努めております。	コロナ禍の折、地域との交流は難しい現状であるが、平時は町内会の打合せや清掃活動などを行い、地域との交流を図っている。地域の方を対象として「無料介護相談室」を開設し、地域との連携を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議等の、地域の方との交流の場において認知症ケアの勉強会等を行い、近隣町内の情報を得、私たちの専門性をいかした分野で相談を受ける等しながらお役立ちできる様心掛けて活動しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の状況、活動報告、研修報告等をさせていただきながら、参加者の方々より意見を頂戴し、サービスの向上につなげています。	コロナ禍の折、法人所有施設の会議室利用や書面による開催等、感染防止対策状況を勘案しながら、2か月に1回開催している。行政職員・地域代表・町会議員・家族代表からの意見を伺い、事業所運営に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域運営推進会議に地域包括支援センターの職員、又は福祉課の職員、議員さんに参加していただき意見や情報をいただいています。	函南町HPに運営推進会議議事録を掲載し、行政担当者とはこまめに連絡を取っている。運営推進会議には議員の参加もあり、多方面からの意見や情報を得ることができる。無料介護相談室の開設についても情報共有を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関しては、法人内に委員会を設置し、参加した職員より各事業所へ報告し、研修を行っています。身体拘束廃止マニュアルを作成し、やむをえない場合、主治医・看護師・職員・ご家族に同意をいただくようにしています。	身体拘束に関する指針・マニュアルを備え、法人内他事業所とともに身体拘束廃止委員会を3か月に1回行い、身体拘束を行わない支援に繋げている。職員は、年2回研修を受け、マニュアルに基づく支援に取り組んでいる。	

静岡県(グループホームまみや)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会の中で話し合い、自己チェックリストシートや虐待リスク・アセスメント表を職員に配布し記入、集計を行い虐待防止の見える化を図ることで職員の意識を高めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は制度を活用されている入居者様がいらっしゃいましたが現在活用されている方はいらっしゃいませんが、定期的な研修は必要だと感じます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、ご本人(立ち会える方のみ)ご家族に同席をいただき、契約書・重要事項説明書の説明をさせていただいております。制度改正等による変更事項のある時は、同意書を送らせていただき同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関入口に設置。来訪者にご意見をいただくとともに、ご家族が面会にいらした際には、管理者や担当職員がご意見ご要望を伺い得られた意見、要望をユニット会議にて職員に報告して反映する様に努めています。	事業所は年1回家族アンケートを実施して、家族や家族を通じた利用者の意見・要望を吸い上げ、事業所の運営に反映する仕組みを整えている。家族の訪問時には、担当職員や管理者は積極的な声掛けを心掛け、伺った意見等はユニット会議で報告して情報共有を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、ユニット会議や個人面談等により職員の意見を聞く機会を設けています。又出された意見は管理者会議に持ちより反映できるよう取り組んでいます。	管理者は、常に職員からの意見の聴き取りを心掛けるとともに、ユニット会議や法人管理者会議にて情報を共有して、運営に反映している。年2回の個人面談(人事考課)では、職員の自己評価をもとに、積極的な話し合いが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自職員職務における達成度について評価を行ったり、習得や研修等における個々の向上心を把握し、処遇に繋げている。又必要に応じ職員面談を行い、やりがいを増やすよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や職業年数等により、法人内委員会に事業所代表として参加して事業所にて研修リーダーとなってもらっています。		

静岡県(グループホームまみや)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター等の勉強会、研修に参加し、サービスの質の向上に努めています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員がご本人と関わる機会を多く持ち生活して行く上での不安や困りごと等に耳を傾け、日々の生活の中でご本人の思いを汲み取る努力をしながら安心した生活が継続出来る様な関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームを見学された際、あるいは申し込みや契約時に、ご家族が困っている事や不安な事、要望等を聞き、これまでの利用者様との生活の中での体験談や思いに耳を傾け、ご家族との構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新しく入居される方は、相談及び面談の時に伺った情報をもとに必要な支援を行う事で、安心安全な生活を送っていただけるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、職員が頼るような場面もあり。出来る事は言葉掛けによりやっていただき、出来ない事をサポートしながら、共に生活を支え合っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月送らせていただいている請求書の中に利用者様のホームでの生活の様子を担当職員が写真や手紙を同封させていただき伝えるようにしています。生活のすべてを施設が対応するのではなく、ご家族にも関わりを持っていただけるようお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族等には現在、前もって連絡等を入れていただき、ホームに面会に起こしていただいております。馴染みの人との関係が切れないよう、支援に努めています。	コロナ禍の折、ボランティア受け入れは中止しているが、家族との面会は事前予約により継続して実施している。長期入居者も多くなり、2か月に1回の訪問美容など事業所での生活や職員との関わりを大切に、馴染みの人との関係継続に努めている。	

静岡県(グループホームまみや)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が調整役となり、その時の状況、個々の状態、利用者様同士の相性等を考え、支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居先での暮らしが、安心して過ごせるようなサービス・情報は、積極的に提示相談に乗る様に努めさせていただいております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活となるべく変わらない様に居室の家具の配置を変更したり、安全安心に過ごせる様に工夫しています。居室の前には名札をつけさせていただいたり、トイレがわかりやすいように表示を設置し不安にならない様にしています。	入居時に「24時間生活変化シート」を作成し、利用者・家族の希望や意向の把握に努め、希望に沿った生活が継続できるよう、職員で情報を共有している。入居後は、日々の会話や様子、面会時の家族からの意見を聴き取り、利用者・家族の意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話・コミュニケーションの中から、馴染みの暮らしを知ったり、ご家族から生活歴を伺ったり以前の利用があればサマリー等で、情報の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや、日々の介護計画記録等を確認する事で、その人にあった過ごし方が出来る様に話し合い把握が出来る様に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々生活の中で個々に新たな課題や、ケア内容の見直しなどが必要になった時は、カンファレンス会議等を開催し、ご本人、ご家族、必要な関係者が集まり意見を出し合い現状に即した介護計画に変更しています。	利用者のモニタリングは、管理者が利用者の検討すべき事項を整理した上で、月例ユニット会議にてケアマネジャーと職員全員で検討している。ユニット会議では、職員や家族、それぞれの立場の情報を取り上げ、介護計画に反映させている。	ユニット会議で、管理者が用意した「モニタリングで検討すべき事項」について検討しているが、モニタリングには日々利用者に関わる職員からの気づきや意見が重要であるため、「業務日誌」に「介護計画に反映してもらいたい点」欄を作る等、職員自らが積極的に関わる工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノートに、いつもと違う状況や新たな気づきを記録し、変更、申し送り事項は文章、口頭で職員間で共有し、日々のケアや介護計画の見直しに活かしています。		

静岡県(グループホームまみや)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の付き添い、役所等の更新手続きの代行、ご本人の身の回り物の購入やご本人宛に届いた封書をご家族に都度郵送するなど、その時々に応じた多様なニーズに対応し支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今まで住まれていた近隣の方々の面会や、地域の行事参加、実習生の受け入れ等を積極的に行う事で、利用者様が馴染みの暮らしを楽しむ事が出来る様に支援させていただいております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族等には、入居時に医療を受ける際の要望を伺い、かかりつけ医に通院していただくか、ホームと連携している訪問診療に変更していただくかを決めていただき、適切な医療を受けられるように支援しています。	月2回協力医の往診と、週3回看護師の訪問(訪問看護師と事業所看護師との連携)により、利用者の健康を管理している。協力医の往診時には、看護師も同席して情報共有を図るとともに、緊急時には連携して対応できる仕組みを整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の利用者の日常生活の中で捉えた情報や築きを事業所の看護師、訪問看護師との連携により適切な健康管理に繋げています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には面会に行き、実際に状況を把握させていただきながら、主治医や看護師、MSWIに情報提供をお願いし、自施設の対応、体制を説明し、相談しながら、早期退院に繋がる様に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホーム入居時には、重度化した場合のあり方についての指針を説明させていただいております。終末期には、ご家族、主治医、看護師、職員で話し合いを重ね、ご本人様、ご家族のご意向に沿えるよう支援させていただいております。	重度化した際の事業所の対応について、入居時に利用者・家族に説明し、同意を得ています。終末期には、管理者・主治医・看護師とともに、再度家族に説明し、利用者・家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。職員は、看取り研修を行い、連携した対応を心掛けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、ご利用者様の急変時や初期対応が出来る様、日頃から準備しています。		

静岡県(グループホームまみや)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上防災訓練を実施しています。地域との協力体制も築いています。また、緊急連絡網を作成し、通信・連絡方法の職員訓練も実施しています。	法人本部はBCP作成に取り組み、自然災害発生時の仕組み作りを図っている。法人事業所が隣接するため、各事業所防災委員を中心に、法人全体での体制を整えている。発電機を備え、水・米・缶詰などの食料は、7日分を目途に備蓄して、管理している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人の人格を尊重し、プライドやプライバシーを傷つけない様、温かい言葉掛けを行い受容の心で支援させていただいています。	虐待防止や接遇に関する研修を行い、人格を尊重した対応を心掛けている。課題が散見した場合には、管理者が都度注意するとともに、ユニット会議で情報を共有している。入居時に個人情報保護に関する説明を行い、写真掲載等について家族・利用者の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけではなく、身振り手振りなどの動作などからご本人の思いを受け止め、一人一人の表したい事を大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様個々のペースや思いを大切に、体操・レクリエーション等も取り入れながら、ご希望に沿った支援をさせていただいております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の訪問美容院を利用し、2ヶ月に一度ホームに来院していただき、希望者はカットをしていただいております。着替え等も可能な限りご本人に選んでいただき、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援させていただいております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	副食は、週7日毎回0クックメニューを利用しています。行事日等には手作りのおやつや、別メニューの献立を作り提供しています。	利用者の好みを聴きながら、行事食等の献立作りに反映させている。「7日のつく日はパンの日」や手作りおやつ(カップケーキ・お汁粉など)の日を設け、食事を楽しむ工夫を心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事、水分摂取量を毎食後等に記録しています。水分摂取の少ない方には、好みの物を提供しています。一人一人の状態に合わせて普通食、刻み、ペースト食等の対応をしています。		

静岡県(グループホームまみや)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの言葉掛けを毎食後行い口腔ケアをおこなっていただいております。出来る方はご自分で出来ない方は介助させていただいております。義歯は夕食後預かり洗浄剤につけ夜間預からさせていただいております。必要時には、ご家族と相談し訪問歯科等を利用していただいております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表に記入しながら、一人一人の排泄パターンを把握し、時間的な言葉掛け、表情、言動、行動に注意を払い、誘導するなど自立に向けた支援を行っています。	排泄管理表に記入し、個々の排泄パターンに合わせた声掛けや、利用者の表情や行動を観察して、安全なトイレ誘導を心掛けている。夜間ポータブルトイレ利用者や車いす利用者でも、日中はトイレ利用を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排便の周期を把握し、朝食前には、牛乳を飲んでいただき、水分補給には常に注意しています。体操への参加も進めています。必要あれば主治医に相談し、排便コントロールを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴をしていただいております。ご本人の状態に合わせ、日や時間を差し替える等の対応をしています。状況によっては時間を問わずシャワー浴、足浴等の対応をしています。入浴に対し男性職員が苦手な利用者様には女性職員対応でおこなっております。	週2回、利用者の体調や気分に合わせて入浴を支援している。利用者の希望に合わせて、同性介助やシャワー浴・足浴等の対応や入浴剤等を利用して、利用者が気持ちよく入浴できるよう、工夫した対応を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の体調や、習慣に合わせて、必要に応じて昼寝が出来る環境を作っています。気持ちよく眠っていただけるように、リネン類の洗濯は必要時、定期的に行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時は、服薬管理表を使い、口頭と書面にて申し送りを行い、目的・副作用・注意点等の確認共有を行っています。体調の変化時は注意深く観察、記録し、主治医・看護師・薬剤師との連携を密にとっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の状態・生活歴を活かして、洗濯物干し・洗濯たたみ・お絞り巻等に参加していただいております。朝の体操、その方に出来るゲーム、塗り絵などの気分転換の支援を行っています。		



静岡県(グループホームまみや)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様個々の意思を尊重して、天気が良く暖かい日など言葉掛けを行い、散歩や外気浴などにを行っています。	コロナ禍により、利用者全員での外出行事は実施できないが、利用者個々の希望や体調に合わせて、散歩や外気浴を行っている。事業所テラスや法人駐車場で日光浴や、法人敷地内畑での収穫や水やりなど、工夫して外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居される際にご家族様等にトラブルがあり得る事を説明し理解していただき預かり金として対応させていただき、買い物や外出の際に使えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月毎にご家族へ行事予定や状況報告を利用者様の写真を載せて送付しています。電話をかけたい方は自由にできるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾り付けを行い移り変わる季節感を感じていただいています。常に空調に配慮し空気清浄機や時期に合わせ加湿器等を使用しています。	職員は、季節ごとに室内装飾を考え、季節を感じることができる環境づくりを心掛けている。感染症対策に注力して、空気清浄機や加湿器を設置するとともに、共有空間や居室の清掃と、こまめな換気・消毒を心掛け、清潔な空間で居心地よく過ごすことができるように支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のあるリビングにはソファを並べて、気ままに思い思いに過ごせるように配慮しています。利用者様同士の相性やその日の体調を考えて座る席をそれとなく気を付けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際出来るだけご本人の使い慣れた物を持参して下さるようお話し、住み慣れた空間で、穏やかに、心地よく過ごせるように、支援しています。	居室担当者と管理者は、利用者や家族の希望を聴き取りながら、入居前から使用していたもの(健康器具や姿見、テレビ等)を持ち込んで、心地よく過ごすことができるように支援している。利用者の体調・状況に配慮した居室作りを心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線を考え、居室内の家具やベッドの位置を変更し、自立支援のお手伝いをさせていただいております。居室に名札やトイレは大きな字で表示することにより、利用者様が迷わないように工夫しております。		

## 目標達成計画

作成日: 令和 4年 4月 8日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26 (10)	ユニット会議で管理者が用意した「モニタリングで検討すべき事項」について、モニタリングには日々利用者に関わる職員からの気づきや意見が重要で有る為「業務日誌」に「介護計画に反映して貰いたい点」欄を作る等、職員自らが積極的に関わられる工夫を期待したい。	毎日の「業務日誌」に「介護に反映して貰いたい点」の記入欄を作成して、ご利用者それぞれのニーズや注意点を職員が記入できる様に、改善する。それに基づいてサービス内容の向上につなげ、職員が気づいて仕事の意欲を引き出す様にする。	「業務日誌」に新しく「介護に反映して貰いたい点」欄を作成する。本日のユニット会議で周知して、至急「業務日誌」に追加の欄を作成します。新業務日誌にお互いに目を通して、必要な事を次回のユニット会議で協議する。又、記録を残し共有します。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。